

教会の七つの柱② —— 御言葉

彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをなし、パンを裂き、祈りをしていた。(使徒言行録2:42)

今日のテーマは、「教会の七つの柱」の第二回目——「御言葉」です。ペンテコステの日
に聖霊が降り、三千人もの人々がバプテスマを受け、教会が誕生しました（使徒2章）。当
時の信者たちが日々どのように生きていたか。その中心にあったのが、「使徒たちの教えを
堅く守る」姿勢でした。ここから、初代教会の信仰生活の土台が「御言葉」にあったことが
分かります。

「使徒たちの教え」とは、ギリシャ語で ディダケー (διδάχῃ) と言います。これは単なる
“講義”や“知識の伝達”ではなく、生活を形づくる教えを意味します。使徒たちは、復活
の主が語られたことばを伝え、御霊によって人々の心に刻んでいきました。そして信者たち
は、それを「堅く守った」とあります。この「堅く守る」は、「専心する」「常にそれに留ま
る」という意味。彼らは一度だけ聞いて終わりではなく、日常生活の中で御言葉を思い返し、
実践したのです。

教会が力を失うとき、それは多くの場合、御言葉が軽んじられるときです。プログラムや
活動が中心になり、聖書を開く時間が減っていくと、信仰の根は次第に浅くなります。しか
し、御言葉に根ざす教会は、どんな風が吹いても倒れることはありません。詩篇1篇のよう
に、流れのほとりに植えられた木のごとく季節ごとに実を結ぶからです。

聖書は私たちに知識を与えるだけでなく、人生の方向を照らします。教会がディダケーに
生きるとは、聖書に学び、聖書に導かれ、聖書に従う群れとなることです。説教や学び会だ
けでなく、家庭の中でも祈りの中でも御言葉が開かれ語られているなら、そこに教会の命が
あります。

私たちの教会も、今一度この原点に立ち返りましょう。「聖書中心の教会」とは、単にス
ローガンではなく、一人ひとりが御言葉に生かされる群れのことです。何か活動を始める前
に、奉仕の前に、まず御言葉を受ける。そのとき、主は私たちを新しく造り変えてくださる
でしょう。

分かち合いの問い：

- ① 最近、心に残った聖書のことばや、特に示された箇所はありますか？
- ② 私たちの教会が「御言葉を中心とする群れ」であるために、何が必要だと思いますか？